

ナミビア

主要データ

国名〔英名〕	ナミビア共和国〔Republic of Namibia〕
面積(km ²)	824, 292
海岸線延長(km)	1, 572
人口(百万人)	2. 1
人口密度(人/km ²)	2. 5
GDP(百万US\$)	9, 459
一人当りGDP(US\$)	4, 543
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、銀、マンガン、ウラン
主要鉱産物：地金	亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山エネルギー省(Ministry of Mines and Energy)
鉱業関連政府機関	地質調査所(MME Geological Survey)、国立地球科学・エネルギー情報センター(National Earth Science and Energy Information Centre)、地質経済課(Economic Geology Subdivision)
鉱業法	鉱業法(Mining Act 1992)
外資法	外国投資法(Foreign Investment Act No. 24 of 1993)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	—
鉱業公社	—
鉱業活動中の民間企業	Angol American(英)、Rio Tinto(英、豪)、Exxaro Resources(南ア)、Weatherly International plc(英)
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・南アフリカ同様のBEE政策に移行すべく鉱業憲章を策定する動きあり ・2007年から新規のウラン探鉱ライセンスのモラトリアム政策を実施してきている
2009年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年5月、政府は、ロイヤルティ支払いを拒否してきたRossingに対して6%(通常の数倍)の適用する決定をし、同社も了承。2008年12月分から遡及適用 ・2009年4月、政府は、排他的探鉱ライセンス(Exclusive Prospecting License)の新規申請や更新時には、現地株主所有権の導入や現地貧困対策への取組みが要求されることを発表 ・2009年12月、国営鉱山会社Epangelo Mining Ltdを設立。2010年7月には社長が就任。今後、探鉱・開発活動を展開する予定 ・2010年鉱業憲章の骨子を公表し、パブリックコメント募集中

1. 鉱業一般概況

ナミビアの主要産業は、鉱業、漁業、農業、観光であり、中でも鉱業は、同国の輸出額の5割近くを生み出す主力産業となっている。この主力である鉱業の最も重要な生産物はダイヤモンドであり、鉱業からの輸出額のうち約40%がダイヤモンドからもたらされている。次いで、ウラン、亜鉛、銅の順となっており、ウランは世界第4位の産出量(2009年)となっている。他の鉱産物の主なものは蛍石、金、鉛などである。

2008年は鉱物資源産業のGDPが116億N\$で、ナミビアのGDPの15.8%となり、その輸出高は全体の50%近くにまで及んだ。しかし、2009年のナミビア経済は、鉱物資源産業のGDPが81億N\$(内、ダイヤモンドによるGDPが28億N\$)と前年比3割も落ち込み、経済成長率はマイナス1.5%と1990年の独立以降、2度目のマイナス成長を記録した。しかし、今後の経済見通しについては、ダイヤモンド価格の上昇、観光客の回帰、南アフリカ経済の回復、さらにはウラン生産・輸出の回復などを要因として、2010年2.2%、2011年2.6%の成長を見込んでいる。

ウランについては、ナミビアのウラン探鉱は1950年代後半に始まり、1960年代後半からは大規模な探鉱が始まった。その結果、国内に多くのウラン鉱床・鉱徴地の分布が判明し、既知ウラン資源量は275千トンで世界第8位に、また、ウラン生産量は4,626トン(2009年)で、世界第4位にランクされている。

現在稼行しているのはRossing(ロッシング)鉱山とLanger Heinrich(ランガーハインリッヒ)鉱山の2鉱山で、Langer Heinrich 鉱山は2007年3月に生産を開始した。近い将来、Trekopje(トレックオブジェ)鉱山やValencia(バレンシア)鉱山、そしてRossing South(ロッシング・サウス)鉱山も生産を開始する予定で、今後、同国のウラン生産は大幅な増加が見込まれる。同国のウラン資源は、低品位ながら規模が大きいという特徴を有している。

2. 鉱業政策の主な動き

2009年4月、政府は、排他的探鉱ライセンス(Exclusive Prospecting License)の新規申請や更新の際には現地株主所有権の導入や現地貧困対策への取り組みが要求されることを発表。その後、2010年10月には、Anglo American社(英)からVedanta社(英)へのSkorpion 亜鉛鉱山の権益売却の承認に際して、政府競争政策委員会(NCC)は、地方投資家への株式売却を勧告するなど、具体的な案件にも影響が出てきている。こうした中、政府は、2010年、鉱業憲章の骨子を発表し、パブリックコメントに付している。

同国は、2007年から新規のウラン探鉱ライセンスについてモラトリアム政策を実施中である。ウランは、従来鉱業法の中で取り扱われてきたが、放射性元素を対象とした新法：ウラン鉱業法(仮称)の制定が検討されている。同法は従来の鉱業法に、原子力エネルギーの安全性・環境内容等を盛り込む予定である。既に原案は作成され、鉱山エネルギー大臣に提出されている。

2009年2月、ナミビア政府はナミビア原子力委員会(Namibia Atomic Energy Board)を立ち上げた。同委員会は数年中にウランの探鉱と開発が増加することを見込み、同国の原子力エネルギー政策を策定する方針としている。

2009年5月、政府は、Rossingウラン鉱山に対して通常税率3%のロイヤルティを2倍の6%を課す決定を下し、同鉱山もこれを受け入れ、遡及して2008年12月分から適用されることになった。なお、同社は、2006年12月のウラン鉱山に対するロイヤルティ導入時より1992年制定の鉱業法に反するとして支払いを拒否してきた経緯あり。

2008年7月、100%政府出資(N\$1,5百万;約1.8億円)によるEpangelo Mining Ltd.が登記され、2009年12月3日に正式に設立された。同社は鉱物資源の探鉱及び採掘を行う国営企業で、独自の探鉱や採掘もできるが、民間企業や他国政府機関と契約を結び活動を展開していく方針である。当面はベースメタル、レアメタル、レアアースを対象に、将来的にはウランも対象鉱種とする模様であるが、

民間企業と対等な立場にあり、政府は同社だけを特別扱いしない方針としている。

また、2010年7月、カタリ鉱物・エネルギー大臣は、同社社長に Eliphaw Hawala 氏（ダイヤモンドのカット・研磨を行う企業である NamGem のトップ）が8月9日付けで就任すると発表した。同大臣は、同社の最終目的は、鉱山プロジェクトへ参入し、鉱山産業における国の関与を拡大し、持続的な鉱物資源の開発、地元経済への裨益、JV への参加を通じて、経済を支えることであると言及した。

2010年7月、JOGMEC は、同国鉱山エネルギー省（The Ministry of Mines and Energy of the Republic of Namibia）と鉱物資源の探査・開発など資源分野で関係強化を図る包括的な内容の覚書(MOU)に署名した。今後、衛生画像データを用いたデータ解析手法について共同技術開発を開始する予定。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 1. ナミビア：金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
銅	5.8	8.8	-	-
鉛	11.2	14.3	10.2	-28.7
亜鉛	201.6	193.0	198.0	2.6
マンガン	52.5	90.0	51.5	-42.8
ウラン (t)	2,833	4,366	4,604	5.5

(World Metal Statistics 2010)

(2) 主要非鉄金属地金生産量

表 2. ナミビア：金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
亜鉛地金	150.1	144.4	150.4	4.2

(World Metal Statistics 2010)

(3) 主要非鉄金属消費量

表 3. ナミビア：金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
亜鉛地金 (南アとの合計値)	99.1	91.2	78.1	-14.4

(World Metal Statistics 2010)

(4) 主要非鉄金属輸出力

表 4. ナミビア：精鉱中含量・地金輸出力

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)	主な輸出相手国 (3か国程度)
亜鉛地金	152	139	-	-	

(World Metal Statistics 2010)

(5) 主要非鉄金属輸入量

表 5. ナミビア：精鉱中含量・地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2006 年	2007 年	2008 年	2008 年 増減比 (%)	主な輸入相手国 (3 か国程度)
該当なし					

4. 鉱山・製錬所状況

表 6. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Otjihase 鉱山	Weatherly International plc (100%)	銅	3.6	2008 年 12 月、操業を休止したが、 2009 年中には生産を再開した Weatherly Int' l 社(英)は、2009 年 9 月、株式の 50.1%を East China Mineral Exploration and Development Bureau(中)に 16.1 百 万円で売却すると報じられたが、そ の後、撤回され、2010 年 1 月、Dundee Precious Metals Inc. (加)に Tsumeb 製錬所を 33 百万 US\$で売却した。生 産量：2009 年
Tschudi (Tsumeb West) 鉱山	Weatherly International plc (100%)	銅	1.2	同上
Kombat 鉱山	Grove Export CC(100%)	銅	-	2009 年以降生産休止中 2010 年 5 月、Weatherly Int' l 社 から Grove 社が買収
Skorpion 鉱山	Vedanta (100%)	亜鉛	150.4	2010 年 10 月、政府は Anglo American 社から Vedanta 社への権益の譲渡を 承認すると同時に、現地企業に株式 を売却するよう勧告した。生産 量：2009 年
Rosh Pinah 鉱山	Exxaro Resources Ltd(50.04%) Jaguar (38.99%) Pe Minerals (8%) Employees (2.97%)	鉛精鉱 亜鉛精 鉱	20.0 94.0	2009 年は、浮遊選鉱 Cell の交換作 業を実施。2010 年に生産再開 2008 年 1 月、2014 年閉山を発表 生産量：2008 年
Rossing 鉱山	Rio Tinto (68.6%) イラン政府 (15%) Industrial Development Corp (南 ア政府) (10%) ナミビア政府 (3%)	ウラン (t)	4,149	2009 年 8 月、Rio Tinto 社は、同鉱 山の寿命を 2023 年まで延長可能と 発表 生産量：2009 年

Langer Heinrich 鉱山	Paladin Energy Ltd (100%)	ウラン (t)	1,225	2008年
-----------------------	------------------------------	------------	-------	-------

(Metal Economics Group)

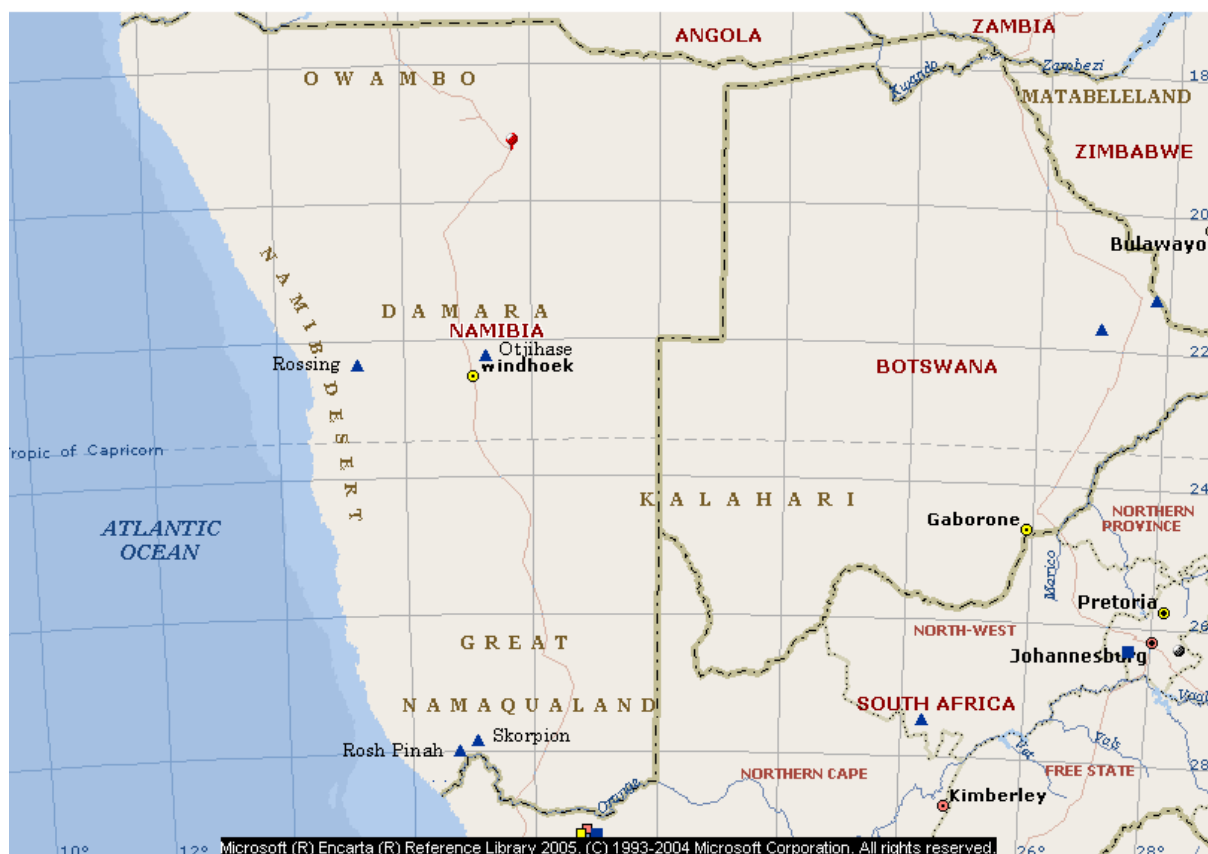


図 1. ナミビアの主要鉱山位置図

表 7. 製錬・精製所生産状況

	権益所有企業 (権益：%)	鉱種・ 形態	生産量 (千 t)	備考
Tumeb 製錬 所	Dundee Precious Metals Inc. (加) (100%) (2009年1月以前は Weatherly International plc が所有)	銅・粗 銅	18.5	生産量：2008-2009年 2010年1月、Weatherly Int'l 社から Dundee Precious Metals Inc. (加) が買収
Skorpion 精錬所	Vedanta 社 (100%) (2010年10月以前は、Anglo American が所有)	亜鉛	150.4	生産量：2009年 2010年10月、Anglo American 社から Vedanta 社が買収

(各社年報より作成)

5. 探鉱状況

Rossing ウラン鉱山の南方 5km に位置する Rossing South 探鉱プロジェクトでは、Extract 社(豪)が、2013 年からの操業を目指し、埋蔵量の詳細評価のためのボーリング調査が行われている。2010 年 8 月、同社は、同プロジェクトにおいて、資源量の 2009 年 7 月比 37%増加を発表。同プロジェクトはウラン資源量が世界第 6 位に相当する。具体的には、鉱床ゾーン 1 及び 2 の鉱物資源量は、U308 品位 480ppm で 241 百万 t と 10 倍増、鉱床ゾーン 1、2、3、4 全体の予測鉱物資源量は同品位 400ppm で 125.5 百万 t となっている。

Africa Uranium 社(豪)は、Hoasib プロジェクト等で探鉱活動を実施している。

Erongo Energy 社(豪)は、Spitzkoppe 地域のウランプロジェクトの探鉱を 2007 年から継続して行っている。2009 年は、更なる探鉱・評価を行うと共に、他社の参入を模索中である。

Etsuscan Resources (加) (Endeavour Mining 社の 100%子会社)は、2009 年 1 月から Windhoek 北東 450km の Lofdal プロジェクトでランタンの探鉱活動を行っている。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 8. ナミビアの日本への精鉱・地金輸出量

(単位：t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009/2008 (%)
亜鉛地金	4,472	14,884	13,517	-9.2

(World Metal Statistics July 2010)

(2) 日本企業による投資状況等

伊藤忠商事は100%子会社のNippon Uranium Resources Pty Ltd (豪州)を通じ、英国法人「Kalahari Minerals Plc」の15%の株式を取得。同社はRossing South探鉱プロジェクトを100%保有するExtract Resources (豪州)の筆頭株主(40%を保有)である。また、別途、伊藤忠はExtract社の株式を10.3%取得し、Rossing Southの権益16.3%相当を獲得することになった。

Rossing Southプロジェクトは、Rio Tintoが操業するRossing鉱山の南方約5kmに位置する。2つの主要な鉱体からなり、資源量は103,000tU @487ppm (カットオフ品位：100ppm)。2013年からの操業を目指し、5,700tU/年を生産する予定。鉱区内には他にもウランの鉱化帯が存在し、探鉱が進めば、資源量の大幅な増加が期待されている。

7. その他トピックス

特になし

(ロンドン事務所 萩原崇弘)